

キラリ看護部



Vol.6

診療看護について



診療看護係長
大田美穂子

今回は、診療看護師について紹介します。

えっ!? 診療看護師って何する人? : そうですね。初めて聞かれる方も多いと思います。それもそのはず、日本に診療看護師が誕生してまだ10数年ですから無理ありません…。ですが! 昨年は、アメリカ帰りの診療看護師が主役(岡田将生さん♡)のテレビドラマが放送されるなど、近年注目されつつある資格でもあるのです。

日本の診療看護師とは、十分に経験を積んだ看護師が大学院に進学し、医師に近い医学的知識や医療行為を習得します。簡単に言うと医師と看護師の間のような存在です。

邑智病院には現在2名の診療看護師がいます。患者さんを中心に少しでもいい医療が提供できるよう、医師や看護師や栄養士など様々な職種の懸け橋となるべく日々奮闘中です。診療看護師は邑智病院のいろいろなところに現れます。救急室、外来、病棟、手術室…病院内を一日中走りまわっています。さらに、退院された患者さんのご自宅に伺うこともあります。入院から退院まで継続して関わらせていただくことになります。



これは、私の心に残る患者さんとそのご家族のエピソードです。90代女性のAさんはある日、足が腫れて

困ると救急外来を受診されました。丁寧に症状を聞き取り、検査を進めていくと、お腹の中にがんがあることがわかりました。Aさんは、はじめは入院や治療にとても拒否的でした。しかし入院後、Aさんにゆっくりとお話を伺っていくと、若いころにご主人を亡くし、女手一つで子供さんを育て、とても苦労してきたことをポツリ、ポツリと話されました。そして、今は孫やひ孫に囲まれて大好きな庭の花を見ることが一番の喜びだということもわかりました。

残された時間をAさんらしく過ごすか、ご家族とも相談し自宅退院を目指しました。つらい症状を少しでも緩和できるよう、お薬の調整や心地よい看護ケアを行いながら、ご自宅の準備も整えました。Aさんの体調を考えながら退院日が決まりました。退院後の訪問でご自宅に伺ったときのAさんの穏やかな表情は、今も忘れられません。それから2週間後、ご家族から「今朝、静かに息を引き取りました。」とご連絡をいただき、そしてその数日後、Aさんの娘さんからお手紙をいただきました。お手紙には『高齢の母の人生に寄り添っていただき本当にあり

がとうございました。庭が見える部屋で家族みんなに囲まれた、穏やかな最期を過ごすことができました。』と書いてありました。お手紙を読みながら涙が止まりませんでした。邑智の地で、たくましく生きてこられたAさんの人生に少しでも寄り添えたなら、こんなに嬉しいことはありません。

これからも医師をはじめ、看護スタッフや院内の多職種、そして地域のクリニックの先生や訪問看護師さんなどたくさんの方と協力して、ひとりでも多くの方がこの地域で安心して生活し、人生を生ききるためのお手伝いができればと思っています。

